

## □第1回エコセンタープロジェクト会議 議事録

日時：平成20年3月17日（月） 午後3時00分～午後5時00分

場所：コラボしが21・3階 ミーティングルーム2

参加者：メンバー 中井、三上、柴山、福井、井上、末富、八森、山本、堀出、高木  
オブザーバー 窪田、高須、川戸、加藤  
事務局 徳永、西村、石黒

(50音順・敬称略)

## 1. 開会（中井）

## 2. メンバー自己紹介

## 3. プロジェクト設立の経過説明（中井）

## 4. 資料の説明（加藤）

## 5. 意見交換

- ・市では1月に環境基本計画を策定したところだ。
- ・なぎさ公園などを活用するためには法律の壁を越える必要がある。それらの実施は自分たちでできるとしても、法律の壁を越えるための支援はあるのか。
- ・なかなか難しい問題だ。基本計画でも湖岸の道路事業は県との調整が難しく削除になった。
- ・県の環境学習支援センターの話が出ているが、県は縮小の方向で検討しており誘致してもメリットがないのではないか。
- ・平成20年度以降、各市町に対して環境学習のためだけに使える資金が渡されることになっている。そこに目をつけてはどうか。ビジネスチャンスになると思う。
- ・現在市としても大学、漁協、JCとのネットワークによって環境学習に取り組んでいる。
- ・単なる環境学習ではなく、既存の概念を超えていきたい。例えば町家と環境学習が繋がっても良い。まちなかの活性化と環境学習がつながるような仕組みをつくりたい。
- ・いままでまちなかですでにしてきたことを、環境というテーマでつなげることでエコツーリズムを展開できるだろう。そのための受け入れ体制が必要だ。
- ・ここに参加している人同士が環境をテーマにもっとつながることが必要だ。
- ・湖の駅という提案をしているが、大津や滋賀県の物産を集めて、環境学習と観光をつなげるような拠点にしたいと考えている。
- ・学習という教育的なイメージではなく、エコツーリズムというイメージが良いのではないか。エコセンターというのも教育的なイメージがする。
- ・エコツーリズムに関する動きは市としてはいまのところ無い。
- ・食ウォークは、大津の食を味わうイベントで多くの人に参加し盛況であった。
- ・まずは今あることをつなげていってはどうか。エコセンターで活動する人がそれをはじめ

てはどうか。

- エコツーリズムとは少し離れるかもしれないが、琵琶湖の上でレストランができないか。
- びわ湖ホールに来る人は少し良いところで食事をしたいと思っている。公演が始まる前、早くから大津に来ている人も多い。しかし食事をするところが無い。いろいろな客層があるので、それに対応したお店が必要だ。
- 現在は規制されているためか、なぎさ公園の中には食事ができるところが無い。この規制を外していかないと前に進めない。
- 琵琶湖には、以前はあったが、うみのこがあるだけでいわゆるセミナー船がない。環境学習を専用にした船が必要だ。
- まずは浜大津をエコセンターとして宣言していきたい。

## 6. 閉会

## □第2回エコセンタープロジェクト会議 議事録

---

日時： 平成20年4月18日（金） 午前10時00分～午前11時40分

場所： 社会教育会館 1階相談室

参加者： メンバー 中井、柴山、沖野、別所、末富、山本、井上、堀出  
オブザーバー 窪田、高須、吉井、加藤、加藤、浦野  
事務局 徳永、小西、高木、石黒

(50音順・敬称略)

---

### 1. 開会（中井）

出席者の紹介

### 2. 資料の説明（加藤、末富、中井（福井案）、井上）

### 3. 意見交換

- ・音楽祭とエコが一緒になるイベントがあっても良いのではないか。
- ・まずはコースづくりをしてはどうか。実際に大津の中を歩いたらできることで、すぐにもできることだ。
- ・エコツーリズムを推進するための受け皿組織が必要だ。
- ・大津は人口が増えている。1人増えれば365人の観光客が増えたのと同じだ。その層を対象にするというのもひとつのアイデアだろう。ターゲットをしっかりと定めた方が良いのではないか。
- ・まちなかのエコツーリズムとしては、寺町の三土市や龍谷大学の町家キャンパス等を取り込んでいってはどうか。町家などを使うためにも現在曳山連盟が情報収集している空き町家情報が活用できるだろう。また、今月オープンするまちづくり交流館も連携できないか。
- ・まちなかにあるものを一度整理してはどうか。
- ・長崎さるくは良い事例だ。地域を元気にする手法としてのエコツーリズムは、市民のパワーが必要だ。現在永源寺で取り組んでいるものも、今ある山と自然をどう生かすかについて、コーディネーターとなる人を育成している。
- ・エコガイドのような語部さんの育成が必要だろう。

### 4. 閉会

## □第3回エコセンタープロジェクト会議 議事録

日 時： 平成20年5月14日(水) 午後5時00分～午後7時00分

場 所： 社会教育会館 1階相談室

参加者： メンバー 中井、三上、柴山、別所、末富、山本、井上、堀出  
オブザーバー 窪田、高栖、吉見、加藤、浦野  
事務局 徳永、小西、高木、石黒

(50音順・敬称略)

### 1. 開会(中井)

### 2. 資料の説明(加藤)

### 3. 意見交換

- ・試行プログラムコースとして、ランチも大津らしいものをつくってはどうか。
- ・各商店が出すクーポンは難しいのではないか。クーポンが無くても何らかの特徴があればいいのではないか。大阪でのクルーズでは、お土産がついて次回に買ってみたいなど思わせる工夫がしてあった。
- ・もともとは草津にできるイオンに対抗するという思いがあったはずだ。試行プログラムは、第一歩であってこれで満足してはいけない。何万人という人をまちなかに連れてこなければならぬ。そのためには情報発信とカタチが重要だ。
- ・まちなかでのツアーのひとつとして、町家を生かした有形登録文化財制度の活用をしてはどうか。高知の奈半利町の事例が参考になる。
- ・大津の文化財を紹介した冊子がある。それを活用することもできるだろう。
- ・中心市街地を拠点として、大津市全土をフィールドに行わないと難しいだろう。
- ・すでに実施しているが、健康志向、美味しいもの、歴史学習などをPRすることで多くの人が集まる。夕方に解散すると、みんな夕食を食べて行ってくれる。
- ・これまで行ってきたストックがいっぱいあるので、いろいろと組み合わせることで実施できると思う。だいたい3,000円くらいの参加費を取っている。食事と講演付。勝手にまちを歩いてもらうというのは無理があるだろう。
- ・びわ湖ホールで公演がある時に、その後見て回ることができるツアーがあれば良いのではないか。
- ・エコセンターということなので、環境という切り口にこだわりたい。もっとロハス的な発想を取り込んでいけないか。多少歴史や文化といった方向に傾きすぎている気がする。
- ・ネーミングがハード整備をイメージさせるのもっとソフトなものがいいのではないか。
- ・エコセンターというのは人を集める場所ではないか。集客できる仕掛けが必要ではないか。いわゆるステーション的などころはつくっていくことが求められる。
- ・既存の施設や空き地を活用することもできる。そこにいったら何かやっている、エコセンターのことが分かる場所が必要ではないか。

### 4. 資料説明(中井)

- ・湖の駅プロジェクト
- ・湖岸プロムナードプロジェクト

### 5. 閉会

大津市中心市街地活性化協議会エコセンタープロジェクト会議名簿

氏名	役職
中井 保	活性化協議会委員(浜大津観光協会理事長・琵琶湖汽船社長)
三上征次	活性化協議会委員(大津商工会議所専務理事)
柴山直子	活性化協議会委員(大津百町の再生研究会)
別所昭和	活性化協議会委員(大津まちなか元気回復委員会 企画部長)
福井美智子	活性化協議会委員(石坂線21駅の顔作りグループ代表)
井上建夫	活性化協議会委員(びわ湖ホール 館長)
末富孝也	NPO 法人 HCC グループ
八森茂樹	浜大津観光協会理事(千石酢)
山本進一	(株)まちづくり大津 監査役(山本電工代表取締役)
堀出正治	大津市都市計画部都市再生課 課長
秋山雅信	大津市産業観光部観光振興課 課長
大西政章	大津市環境部環境保全課 課長
山田和昭	びわ湖大津観光協会 事務局長

吉見精二	(有)地域観光プロデュースセンター
加藤典嗣	(株)J-COM

《オブザーバー》

窪田雄二	滋賀県商工観光労働部 商業観光振興課 観光産業振興室 室長
加藤寛之	GOM 計画研究所

